

大和高原文化の会

空をかける夢のロープウェイ

「奈良安全索道」

令和4年(2022)10月18日 出版 ID11366015

明治から昭和初期の時代、凍り豆腐が大和高原の特産品でした。が、製品を、空を渡して運搬した索道のことについては、今となっては当地でさえ知る人ぞ知る幻の存在として消えようとしています。そこで本会では十数年前から聞き取り調査を行い、建造に尽力した人々や搬入・搬出の駅をはじめ、約17kmのコースなど、まずはその外観をとらえることができました。そして索道地図模型を製作したりもしました。

近年、ロープを架けた支柱跡など、山中雑木に埋もれた遺構の発見の更新を続けてきましたので紹介します。

奈良県では南部山間部を中心に索道が多くありました。奈良安全索道は大正9年(1920)奈良・京終駅と南田原・天満駅間約8km竣工。後、小倉駅まで延長。昭和27年(1952)廃線。索道の遺構(支柱跡)調査は令和2年から大正11年の地図をもとに調査し新たに発見に至った。

空をかける夢のロープウェイ

奈良安全索道

1919~1952



(岩名健一さん撮影 昭和18年頃)

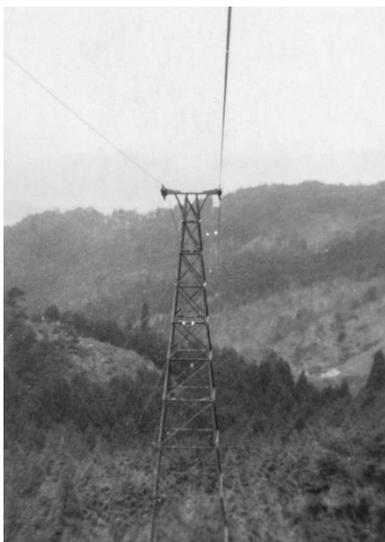
大和高原文化の会

2022



索道京終終点

写真提供：奈良市史料保存館



昭和18年頃 南田原鉄柱

写真撮影：岩名健一氏



索道の鉄柱と搬器

写真提供：京終なんとかしよう会



礎石④

礎石①



礎石③

礎石②

最近発見された支柱跡

写真：浦川温亮氏